おかげさま

編集・発行
おかげさまの会
足利市本城3－2055
樹覺寺あけし会館

適齢期

秋の夜長を鳴き通すあ～面白い虫の声。月は冴え、虫の声が静かな宵に澄んで響いてきます。急に涼しくなり、身体の調整が遅れているようです。気をつけましょう。

９月１８日に、千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要にお参りして参りました。今年も新たに１８４３柱のご遺骨が納骨されました。ここ墓苑にこれまでに３６００９６柱が納骨されています。戦後６９年を迎えようとしていますが、まだまだ多くの戦没者の方々が各地に残されておられるとのことです。故郷へ戻ることが叶わなかった方々が沢山おられることになります。ご本人はもちろん、遺族の方々も淋しい想いをされておられることと思います。戦争は二度と起こしてはならないと、強くそれぞれ一人一人が意思表示して行かなければと、毎回再確認する参拝です。全国からお参りされているのですが、その意思表示として、これからも沢山の方々にお参りしていただきたいと思います。

千鳥ヶ淵は樹木が沢山ある所でして、今回デング熱が流行り、ちょっと心配していましたが、無事に済んだようです。あるご法義大切にいつもお参りされているご門徒さんと出逢い、そんな話しになりました。

「それが私の歳になると、新陳代謝が悪くなっているので、二酸化炭素の出る量が少ないために蚊が寄って来ないようです」と、「はあ、そううなんですか？そういえば、私が思うに抗生物質などの薬を飲んでいる時も刺されないような気がします。」「そうかもしれませんね。蚊も生きるために一生懸命ですからね、デング熱だって蚊を攻めるのは可哀想ですよね。」「そうですね、私たちはこんなふうに無意識に相手を傷つける言葉を口にしていますね。反省、反省」

本願寺出版社からの最新刊に「65歳

からの仏教」という本があります。私はまだもうちょっとあるのですが、はじめに‘65歳は本当の自分を見つめる適齢期（てきれいき）’と書かれています。いかがでしょうか？その中の文を少し紹介させていただきます。

南無阿弥陀仏（なもあみだぶつ）と死者（ししゃ）

「親鸞（しんらん）は父母（ぶも）の孝養（こうよう）のためとて、一返（いっぺん）にても念仏申したること、いまだ候（そうら）はず」（「歎異抄（たんにしょう）」第５条）」

――私（親鸞聖人）は、亡（な）き父母（ふぼ）の追善供養（ついぜんくよう）のために、いっぺんたりとも念仏をもうしたことは、いまだかつてありません。

親鸞聖人は親（おや）であっても、死者（ししゃ）のために仏教（ぶっきょう）を用（もち）いることを強烈（きょうれつ）に否定（ひてい）されています。ですから、この言葉にショックを受ける人がたくさんおられます。しかし、本来（ほんらい）「南無阿弥陀仏」は死者とは無縁（むえん）のものだったのです。

「南無阿弥陀仏」は漢字で表記（ひょうき）されていますから中国語のように思われていますが、実（じつ）は古代（こだい）インド語の発音（はつおん）を、漢字をローマ字的に用（もち）いて音だけを写（うつ）したものです。その意味を意訳（いやく）すると「私は阿弥陀仏を心から尊敬（そんけい）し、礼拝（らいはい）しつつ生（い）きます」となります。まさしく生き方をあらわした言葉です。決して死者を送る言葉ではありません。

では、皆さん自身の生き方を振（ふ）り返（かえ）り、いかがでしょうか。先にも話題（わだい）にしましたように、何を尊敬（そんけい）し、何を拝（おが）み、何を目的（もくてき）とするのか。また、これ

明　石　狸

人生に折り返し点が有り得ないことは分かっています。しかし、「人生の半ばも過ぎると…」などと使いますね。今年も、お浄土がますます賑やになったと感じています。お浄土の住人が残された言葉も思い出されます。

「来迎待つことなし」と念仏申され、一合飲んでも、五合飲んでも、何時でも「今が定量」と飲み続けられた御仁がおられました。

「白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒は静かに飲むべかりけり（若山牧水）」

今宵は、思い出と間違いなくあえる世界を肴に、清酒ですね。

からも生きてゆこうとしているのか。老境に向かう自分の健康、経済力、地位が目的なのか。改めて考えるに、健康で、金があって、地位があって、それで何をしようとするのか。余生をのんびり暮らす、それで本当に充実した生涯といえるのかを問うべきでしょう。改めて、本当に尊敬すべきもの、目的とすべきことに意識を向けるべきです。

では、自分個人が、そして世界が尊敬すべき生き方とは何か。それこそ「ホトケ」と言われた生き方です。それを「大慈悲」とあらわします。「大」とは、偉大、広大、分け隔てのないこと、「慈」は自身の幸せを他に無償で与えることをいいます。「悲」は他の悲しみ、痛みを共感することです。

経済的価値観中心の競争意識からすれば、（何を愚かなこと」と言われるかもしれませんが、果たしてそれのみでよいのでしょうか。自分の幸せに拘り、誇り、他の幸せをねたみ、羨み、さげすむ姿、そこに真の幸せはないと知るべきです。「大慈悲」は直ちに実現できることではありません。けれども、この生き方を尊重するところに、自他ともに豊かな世界が開かれてゆきます。その生き方を端的にあらわしているのが、先の「南無阿弥陀仏」だったのです。この生き方を尊重するところに、自己中心的浅ましいさを慚愧する心が生まれます。その意識こそ真実に向かっている証なのです。

現代人が、不幸で、空虚で、癒されたいと歎く根底には、愛の感受の欠落があると思われます。６５歳という歳を迎えて、これまでの間、苦労して生き抜いてきたと豪語するかもしれませんが、その６５年間、どれほどの愛と善意、そして犠牲によって生かされてきたか、深く顧みる必要があるでしょう。

自分の愛を他に感受させることには敏感であるが、他からの愛は感受できない。愛を受け取ることが、当然としか受け止められないことが現代人の不幸と空虚さのもとと言わねばならないでしょう。その感性が復活されたら、あなただけでなく周囲の人びとも含めて、もっと幸せになるはずです。

いかがでしょうか。「６５歳は本当の自分を見つめる適齢期」

あけし あれこれ

ハ ゼ ラ ン （爆蘭）

叔父の家の庭に咲いていた花が、線香花火のようで可愛らしいので、いただいて来ました。その時増えて大変だぞと言われたのですが、可愛さに釣られ何とかなるかなと、植木鉢に移してもらい持って帰りました。軸がスーと伸び、まばらに軸が分かれその先に小さな蕾がつき、小さなピンク色の花が咲きます。ちょっと控えめに咲く小さな花がとっても可愛いです。これが、赤い小さな丸い実となり、種となり、次の季節にはみな芽を出していっぱいになるのです。芽が出てきてくれるのは嬉しいのでそれがいっぱい過ぎて確かに困るのです。勝手なことで、ほどほどに減らしています。でも、ちょっと切って小さな花入れに挿しても、可愛らしい花です。

三時頃に咲き出すので、三時草という名がついたとのこと、素敵な名前ですよね。

爆蘭（はぜらん）　　滑りひゆ（すべりひゆ）科ハゼラン属

道端、コンクリートの隙間などに生える南アメリカ原産の多年草。

茎は円柱形でまばらに分枝し高さは３０ｃｍ～５０ｃｍになります。茎先に円錐花序を出し、径約３ｍｍの赤い５弁花をまばらにつけます。

ただし、午後３時頃の２時間～３時間しか花を開かないため、球状のつぼみの状態で見かけることが多いです。

果実は球状で、初めは赤色ですが、のちに褐色になり、黒色の種が入っています。明治時代初期に観賞用として輸入されたものが、各地で野生化しています。根は結核に効果があり、薬用に利用されています。原産地では野菜として食用にもされています。

別名　三時草。三時の貴公子。花火草（はなびぐさ）。コーラル・フラワー（英名）褐色で球状の小さな実がサンゴ（コーラル）のように見えることから。